

第1回 吹田市立図書館窓口等業務委託事業者選定委員会議事録

1 日 時 平成31年4月18日（木）午前10時から午後0時15分まで

2 場 所 吹田市立千里山・佐井寺図書館 東館3階 ボランティア会議室

3 出席委員 広瀬義徳 関西大学文学部教授
柴田英明 大阪府立中之島図書館ビジネス支援課長
後藤壽満子 吹田市社会教育委員
野々上律子 吹田子どもの本連絡会代表
井上寧 税理士

事務局 落俊哉 吹田市教育委員会地域教育部次長
長八七代 吹田市立中央図書館長
森司朗 吹田市立千里図書館長
梶原文 吹田市立千里山・佐井寺図書館長
井手庸子 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館
山田駅前図書館長
迫田希代 吹田市立千里図書館館長代理
佐野真奈美 吹田市立千里山・佐井寺図書館館長代理
伊藤佐知子 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館
山田駅前図書館館長代理

4 内容

- 1 選定委員の委嘱と役員選出について
- 2 吹田市立図書館窓口等業務委託についての説明
- 3 窓口等業務委託事業者選定スケジュールについて審議
- 4 窓口等業務委託企画提案（プロポーザル）公募要項の検討・審議
- 5 窓口等業務委託事業者選定に係る評価項目と審査基準の検討・審議
- 6 吹田市立千里図書館窓口等業務委託仕様書について検討・審議
- 7 吹田市立千里山・佐井寺図書館窓口等業務委託仕様書について検討・審議
- 8 吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館山田駅前図書館及び山田分室窓口等業務委託仕様書について検討・審議

5 委員からの質問とそれに対する回答

質問 資料3・4・5の公募要項4委託料について、山田駅前図書館と千里図書館、千里山・佐井寺図書館との価格の差が大きくなりますが、その理由を説明してください。

回答 千里図書館、千里山・佐井寺図書館はそれぞれ単独の委託料ですが、山田駅前図書館は山田分室も含めた委託料になるため、価格が異なります。

質問 資料3・4・5の公募要項6（1）選定方法について、企業のアピールの場になってしまうという理由でプレゼンを行わず、今回の選定方式に変更されたとのことですが、それによって評価が大きく変わるということはあるのでしょうか。

また、館ごとの人員配置はどうなっていますか。委託料の中で人件費の部分が一番大きいと思うのですが。

（委員長より説明）

今回3つの案件を同時に進めているので、合理的に進めるためにも今回の選定方式は有効だと思います。プレゼンの場で理念や会社の概要の説明を受けても、選定の評価には反映しにくい面がありました。具体的に委託業務内容についてテーマに沿った提案書を書いてもらい、その内容についての質疑だけで十分ではないかと思えます。

回答 現行の人員配置は、千里図書館が16名、山田駅前図書館と山田分室あわせて22名、千里山・佐井寺図書館が16名となっております。内訳は千里図書館がフルタイム勤務が10名パートタイムが6名、千里山・佐井寺図書館はフルタイムが11名パートタイムが5名、山田駅前図書館と山田分室はフルタイムが13名パートタイムが9名となっております。委託料については、現行の委託料を参考に職員人数を考慮して上限を設けています。

質問 資料4・5の公募要項1（3）について、委託期間は3年間となっておりますが、図書館の業務は継続性が高いので、今後は委託期間を5年に延ばす等の検討をされてはどうですか。

回答 「吹田市長期継続契約に関するガイドライン」で、「役務の提供」は3年まで、「機器の借り入れ等」は5年以内との規定があります。この規定に則り3年としております。

質問 資料6の評価項目と審査基準4項「各項目におけるポイントの算定方法」
①業務受託実績の規模・内容評価 表2について、この表ですと年間貸出冊数が30万冊未満で蔵書数が30万冊以上の実績がどの評価ポイントにも属さないこととなります。表の3行目の「蔵書数20万冊～30万冊未満」

の「30万冊未満」は年間貸出冊数にかかるのではないのでしょうか。

回答 ご指摘のとおりですので訂正いたします。

質問 資料6 評価項目と審査基準の⑤⑥が2項の表1の部分で提案書のテーマと質疑との両項目にあるのですがこれについて詳しく説明してください。また、採点は各テーマを5段階評価しテーマ1・4がかける2、テーマ2・3がかける4でいいのですか。4項の算定方法にはその説明が書いていないのですが。

回答 提案書のテーマ1から4に書かれた内容に関する評価を行い、それに付随して質疑に対する答えも評価指数に組み込みます。質疑に対する評価指数は応答性と質疑で感じられた業務への取り組み意欲を評価していただくこととなります。掛け率についてはご質問のとおりです。4項の算定方法の部分に乗率について追記します。

質問 資料6の評価項目と審査基準の⑤業務実施方針、⑥業務実施手法は各項目について5段階で評価すればいいのですか。また、質疑に対する応答性と専門能力について説明をしてください。

回答 資料6の⑤⑥については5段階評価です。質疑に対する応答性と専門能力については、質問に対して専門知識を持って回答ができているか。図書館関係者以外にも分かりやすく回答ができたかという部分の評価をお願いします。

質問 図書館は近年、機械化されてきており人件費が削減できるのではないかと
思うのですが、機械化を進めている割に人員が多いと感じます。

回答 委託職員にはフルタイム、パートタイムがあり、パートタイムの職員の交替時間や、夜間開館日の職員の交替時間にはカウンターに人があふれて見えるのかもしれませんが。また、利用者の目にふれないバックヤードの仕事もかなりあります。

質問 図書館を利用する人にとっては司書率というのは重要です。司書率についてはどうですか。

回答 前回までは参加資格に司書率50%以上と入れておりましたが、今回より外しております。その代わりに提案事項に司書率を記入してもらって評価するという形にしました。また、仕様書の見直しを行い専門性の高い複写の受付、資料の受入などの業務を外しています。

質問 委託業務と市職員業務の切り分けが難しいと聞きました。現在の委託業者

との関係性はどのようになっていますか。

回答 毎週の定例会で提案や改善を伝え、円滑に業務を進めています。

6 開催結果

資料6 評価項目と審査基準

2 項「評価方法」

(3) 最低基準点は、価格点を除いた評価点の合計点の6割とする。

4 項「各項目におけるポイントの算定方法」

・①表2

蔵書数 30 万冊以上で年間貸出冊数 30 万冊未満の図書館がどこにも該当しないので下記のように改める

年間貸出冊数 30 万冊以上	3
年間貸出冊数 30 万冊未満、 かつ蔵書 20 万冊以上	2
年間貸出冊数 30 万冊未満、 かつ蔵書 20 万冊未満	1

・⑤表 10、⑥表 11 に乗率を追加する。

・「質疑」について記載がなかったので、質疑の算定方法、ポイント一覧、評価の観点を追加する。

今回指摘のあった上記の内容について改訂することで、議題すべてについて全委員の承認を得ました。